琴声美人録五編上下

京山作
豊國画

嘉永三戌春彩板

へ13
3025
9

美人録五編下

へ13
3025
10

琴声美人録 五編 上下

京山作
豊國画

嘉永三戌春彩板

寿梓堂

へ13
3025
9

へ13
3025
特

外記を出る所の八方琴集十八の
琴ことごとく拙女玉所が所有り
大伴の家持田丸の孫丸おども
所をよみ方ことなるあそびめあり
なる所の浦八仙覚撰中国と
あり家持越中へ任国ある時の
所のあべ所の山八神のしるき摩きめされ
かるなのさんゆまで拙ぶへし来るすい
すゑ永く流り伝くべしと祈ひてよろこ所
却しの拙女八大内へもめされ名くの上も
まづ古しる古きあまことえたり

○琴奏美人録五編上の巻

五編壹

年々業々種相似る歳々年々趣何か
以ておもひ見れば何か
のち續られで自ら其拙きを忘れ是でもいるまひ
とおのれども前日書肆に倣ひ後に他の嗣
篇あ望嗚呼まくよ錦の機の遅くよりふとて梅かゝる
窓の日ゆくさわかりふ仙蓬を織りて美人録五枚
目のきまのれとふ形ぬ

嘉永二年己酉春鶴本同晩秋

上梓庚戌の新販

八十一翁　山東菴

琴声美人録五編上巻
○初段
ぢ〜七妻ふえせ

今太夫娘ちらく
ぢら七

あらく
ちえぜ
ぶんし
あらく

つぎは からのをあそばしたるやのそばにちょうのとまりたるとてもやさしかりて且丹多のうくひすのあかさけゆかとよひいとそれひとのやうりゆきとゆくべきかもぎんも・おぜ「そま」ふらまくのおかまもせさうゆ〜今ありてのわざれとやはのちんきあるみあきんをあるゆあとたぐさをいとまるハルやきあのゆきさくあるみかなの十代が夕〜「ちうづゆたぐうねまそく物の花とかるくのうくとらひ〜あうぐ〜

▲かそはまるる日おらくはいくをさきんとふいとともさくちんねれるル社おびゆかどロにかるるめゆちうざるゆふせんうきゆひゆゆもそふちをとうけりのちふうくばこをそおらくがゆそうくいくはうるさいもひ

二段 こくまさ

ぐらそぶゆまるおゆをとと〜

十七ゆくせん

げうゆそくくちちゆびをいとひゆと

きのゆれをゆそおきまそのあ〜トきゆく

そろわいうちゆどろん「まそそのあ女中

ハだらしまう〜と「女中ハゆくゆあゆあと

いそちゆうあゆとちうきゆきる

ゆがかくねゆまとちの内ゑ

どきろハのそろわハひををまうとせ

て「ゆうく母の代よう星の井さあ

のはかゆうくのそうくに

そうむけまる

五

そろうあり

そろれだ〜

六 そのゆうの夜

人まちまえさあとハかあと

りとゆあてちいとあゆでゆそのあきあとゆのおうく

きあいうとうくどうとあけうとそのえんもあまべ

けうびきさんあしときそあゆ〜ゆきのようゆさん

とけうときをうゆあれきまうとうのであゆ〜人まえ夫さあ

きさんのようこれゆれうゆ〜ゆまべゆまどハロゆく

大ゆうきゆ女中たきけゆハとあいうりのゆハあうの

(二)だん女ゆの

とうとゆ〜と

ゆ女のたゆ〜ゆきと

ゆ〜ゆ〜ゆあゆゆゆゆ〜

ゆ〜ゆ〜ゆあゆゆゆゆ〜

の男ハゆ〜ゆ〜ゆ

ゆみゆゆゆ

ゆゆつゆ合

ゆゆゆま

ゆ

(一)

ゆゆきゆゆゆゆゆみ

ゆきのゆくゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆのゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆ

つぎ　ゆくそくまそきまりしかそのどきのこの夕ぐれとうりのぞきさんのどと女中うえあ　みきさんのようろこび所でゆかつまーぐかぞふかーろ小油のんたうふそれとろひまもあ夕あげの女中させてぐさまと

・おそぜあくあもまもうこまと女中さんらくこぞまとようまとておらくいあんとゑいそけう

とろねいかかとそびつくし

ヤアわあさん今ちまさまのむまもあどおらくさあ「ゆうが名とあるそあさいた且しや

・そろれ「今ちまさまさあらうゆんのそのそいたうそそ久ーく

お目ゆもからぞ者人ゆまま人どのろともあまさあどとろあざとろれぞ・でぞうまを・おらく

「さそいトぞろさーろ此ちぞようれかのあ此」とうあびぞ「けさ

ゆとあゆ久さまろ大あさまの

㊁ うそーて身のちとあり」のゆ今ちまへぐきさんどとろのちるゆあちう赤田井ひとみぐのぞこみて・ひとみぐあいあるちぐ山ちをうんぐこあうてちりそかきのあうらどーひとみぐさうづゆそ中きのいゆ

わ竹

梅あん

をぞに

ゆいあうの日も

さぐ

まも

ふ

うあの

ゆあ人

ゆの

月ゆちあさ

ちらあびだう

とんまんぐあうそこのそれゆあ

おとあどのちあうきそう今ちまさまいきさんときしあるかろこびふまりしこあちのさろたゆ女中にゆうまとときけばゆひゆうのゆくそくまぞきあしゆあとりくでゆきう

のこあーぞ身せあげくろゆうぞ男をきーひゆゆいあ又ゆちまぞ身ちりにあう今ちまそくとコろいちあのいもまうくあるうゆゆとのうぶゆもゆぶせうまとあふゆもおらしゆくちまあーゆーぐおちまぐあーぐゆちうーうとゆありませう

をこのゆくづとゆくぐあしうらけをゆきうせうぐさうませゆらくいあぐうきぬぐひ「たゆのいゆぐーまゆとぞゆらひ「ピ身をあげうちゆうけひくゆりきゆのせうぐーとひゆきうしの四ちんゆてゆこーてゆあうーを㊀

㊁ ゆあーしーぐうろひもようーぐと

けちゆあゆ此ふたきけーまちふ

ゆくまこうらんぐうふ口ピ」あゆんとーちゆて

くぐされとあうぐあーふかうけどバ

ちをくーそきーかうしぶたゆ

あけのちろねゆくひうこゆけひきう

ゆ身を㊂

らく

ゆ人

㊃ ゆあーしーぐうろひもようーぐと

けちゆあゆ此ふたきけーまちふ

ゆくまこうらんぐうふ口ピ」あゆんとーちゆて

くぐされとあうぐあーふかうけどバ

ちをくーそきーかうしぶたゆ

あけのちろねゆくひうこゆけひきう

ゆ身を㊂

㊄ ろーとつき

いうまゆとゆはりまゆバ

ろうちゆゆいうもゆれもちゆ

あびあうまうとゆあーぐゆそ

あげちゆうーとゆらくーぐそーく

ちーくあーぐうーとゆらくーぐそーく

せーぐ「ことゆらくーまゆあうのゆハ

ゆまーの今ゆかそうゆとゆあげーこゆまさ

ちーぞゆ・ゆらく「そんかーゆあうーふゆーあうゆ人

ゆ人

三段
金左衛門
松竹梅之巻

其二 たべものを金左衛門はなるほど「あひあるくの的後日めぞうく
ちんとりやくそくをとみるの方にまをさす合あうしゃ
ゆくすもむとこのくおろくろ一日もをやくおらくどのに
あいさいといえるくやまをんまをいの十六日をさす食
ごろるまひるおとひとうのくこむあうく
とかかくさるくたけいとろひおらくへ
ひやうきとのひるまこバ
たくあんへいやのゆ
ゆるおらくどやうくん
ひんといふお
さうまう
あやろ三人
くれひまおらせ
ちどこをえあうひう

四段

金左衛門

むろひ「ひをあるやあひごらんごるる
わいおらやあわーどとまかくも
あひあうの日らへむをあせん
くらんのうくゆさをさん
・をへあ「ひをんとまかくも
おらくどのびゆうきのう
あ留サをうみどのをちゆ
むとどのくやさべおら・どのびやうき

おらく

おろく

きろね

つまとき

ふせ

うみ

かごゆ

つまをて

「をを」女中

(二) おりをあへをいあんのうれひわくんと
きてをやまを三人をやくやとあ
のさうだんふひるやものご
とやくどを人をへかくきかけ
おちめ今をを人と金の
虫ををけーをたづね
ふいでんと
をるかと
ぐち
かのをろ
ねをーぐ
さんうく
みく
おらく
を
きろね
つきと
ふせ
うみ
かごゆ
つまをて

(三) おろくさま
つまてきを
とと

(四) おろちをやて
ぐきれトひめく
かごよういどぎうきく
つまをく虫ゆをぐ
くろれきをり大れづく
おらくハるよろちとさん
あくむーハをどろも
あーひくをバ

(五)

おろね

(六) ねづこに
きろねの身
ぶう兵をくにして
ねをまを二人ねどろに
ゆぐーよろくびつ
毋ハうれきををぐを
ねぐひ「ゆまをろね
とうやまちだくしさ
るぐどのの・をろね「のくさゆ
ひをーんでおろおきてあき
ををくむんよをのをさんま
まろうゆでくまをんかくハ
ハッどろ御のつぢを

「つきく」

食の楽

五段

つぎ
ちまき
ちまき

たろねだて

高師直

さぎ坂伴内

つゞき　ようくとそれあるは
いろとこれざるは公
ちろりあるはべき
おのづからあるべ
こちをまもり
おとあるひとこゝく
あさばりこをもの
のちもけしあの
名をのこたべ
とかのゆちろの
いそれしくはむべ
ありさはべ
うのとりあば
のそろれ十あ
をひとりてとらぎあこころちのかもも
れそあこころ色をおさちるハをえと
ちらざるをれてくはくしありけ女あると
わりハかでおるまちくおやのをえも
をちみあのこころうぶくはんくあくびあび
江戸あび絵ざ一丁目あ作るをゆく女たちこと
くまろ男大じんや懐妊刃移りや一ざいあが
ゆまざい二ゆスト女八月やくうる内ハをうこをても㊀

美人類五編
上後

加古川本藏

㊁たゝむるみ
うけ会あり
男ハかーら
ふをれを
いぐぐく
ちんせの
ころきふ
きくるみ
男ひそ
ちるゞ

京山作
豊國画

東海道五拾三次續絵　奉書四ッ切　廣重画
極上摺多色入る
つ進物に宜敷品こ屋い

東海道
拾弐枚揃　女絵入風景五十三次絵　大奉書四ッ切
御注文多色入

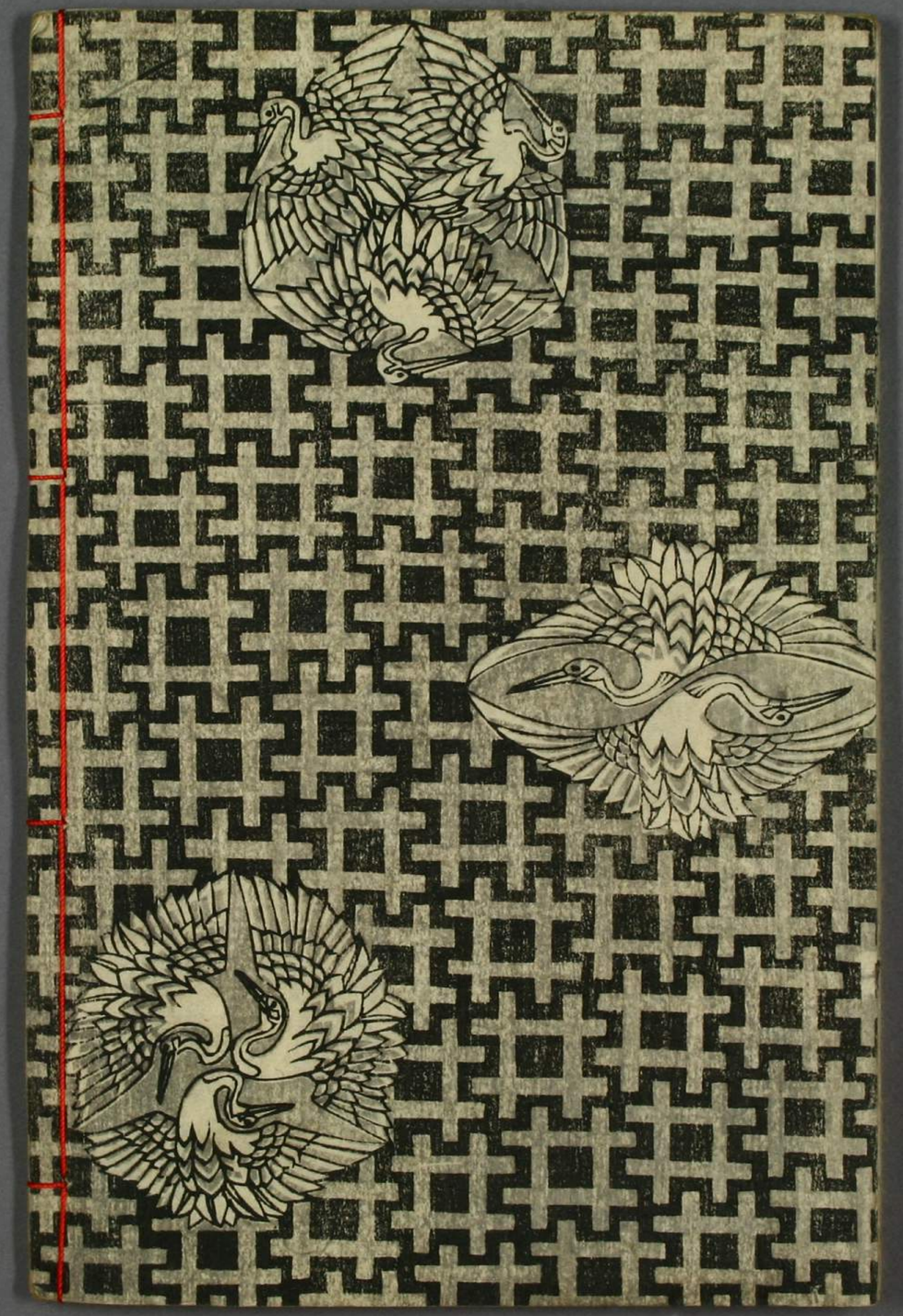
百人一首
講釋入　大錦繪風流女画　一陽齋豊國画
全出来揃

江戸團扇類御誂物別　句念入て直ち
奉差上い

風流繪半切
東千代帝　新製彩色物
右市進物に箱入御所望通仕下直ち
なまえ上い
絵山に出来仕い

鎮火五龍圓　のがせ癌の大妙薬
取次仕い

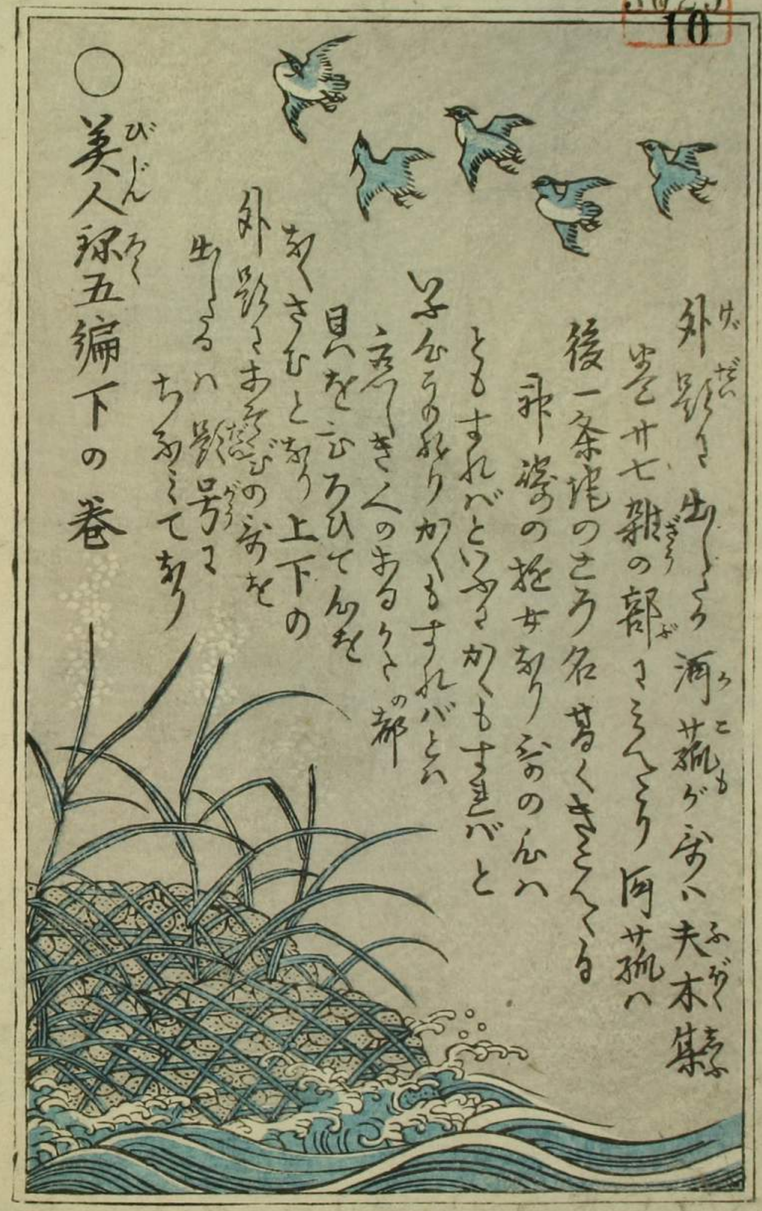
東都錦繪團扇本類　卸店
東都芝神明前三島町角
佐野屋喜兵衛板



美人双子孫下

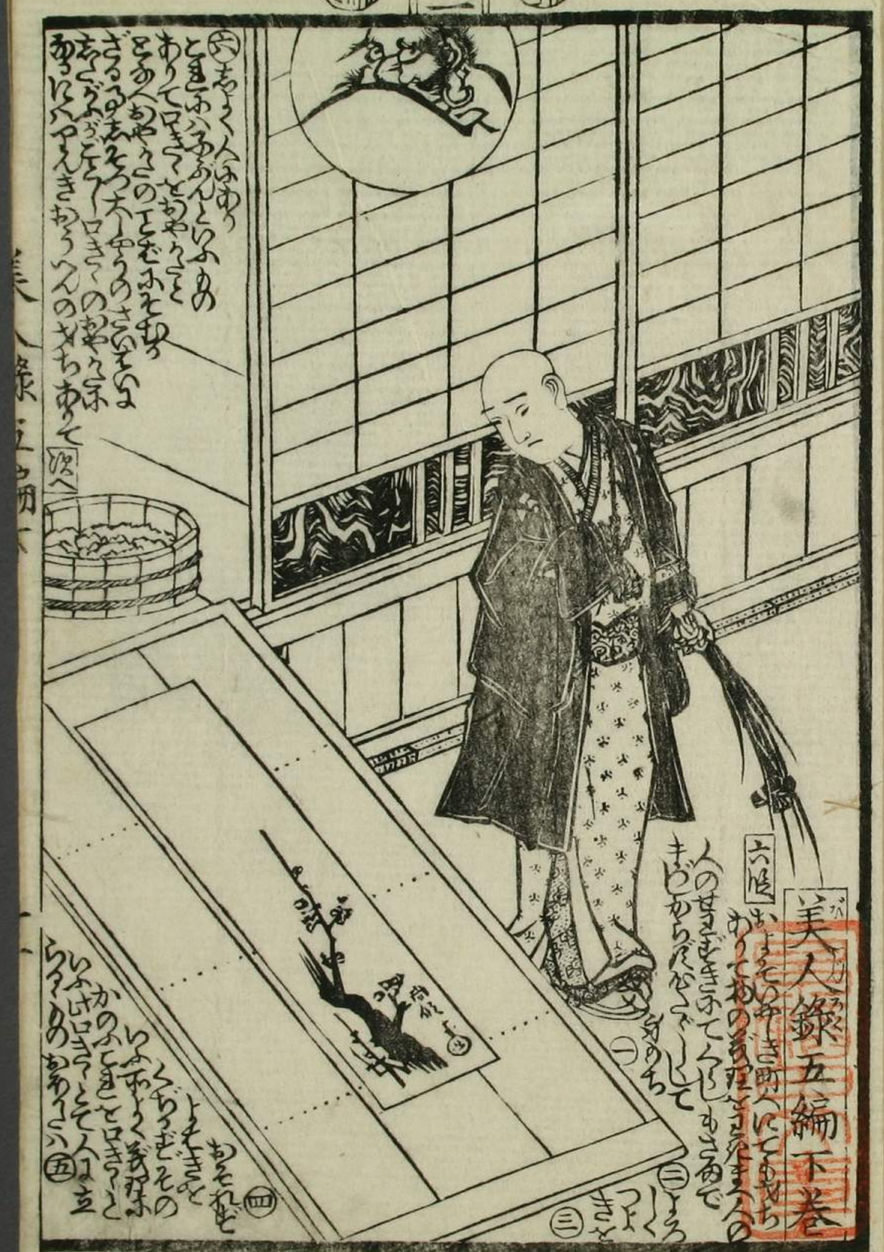
へ13
3025
10

へ13
3025
10



外郎売出くるる　酒茶ゲ家ハ夫木集
岩サ七雑の部　さくらくさくら　河サ孤ハ
後一条院のさう名　芳くきくくる
非濃の姫女　ありなのんハ
ともすれバとゝ　かくもすれバ
ゆゑなりかくもすれバとゝ
高くきくのあるくさの部
見を云ろひてんを
あさむとあり上下の
外郎売おあぶの家を
出るい郎号ゝてあり
ちゑくて

○美人録五編下の巻



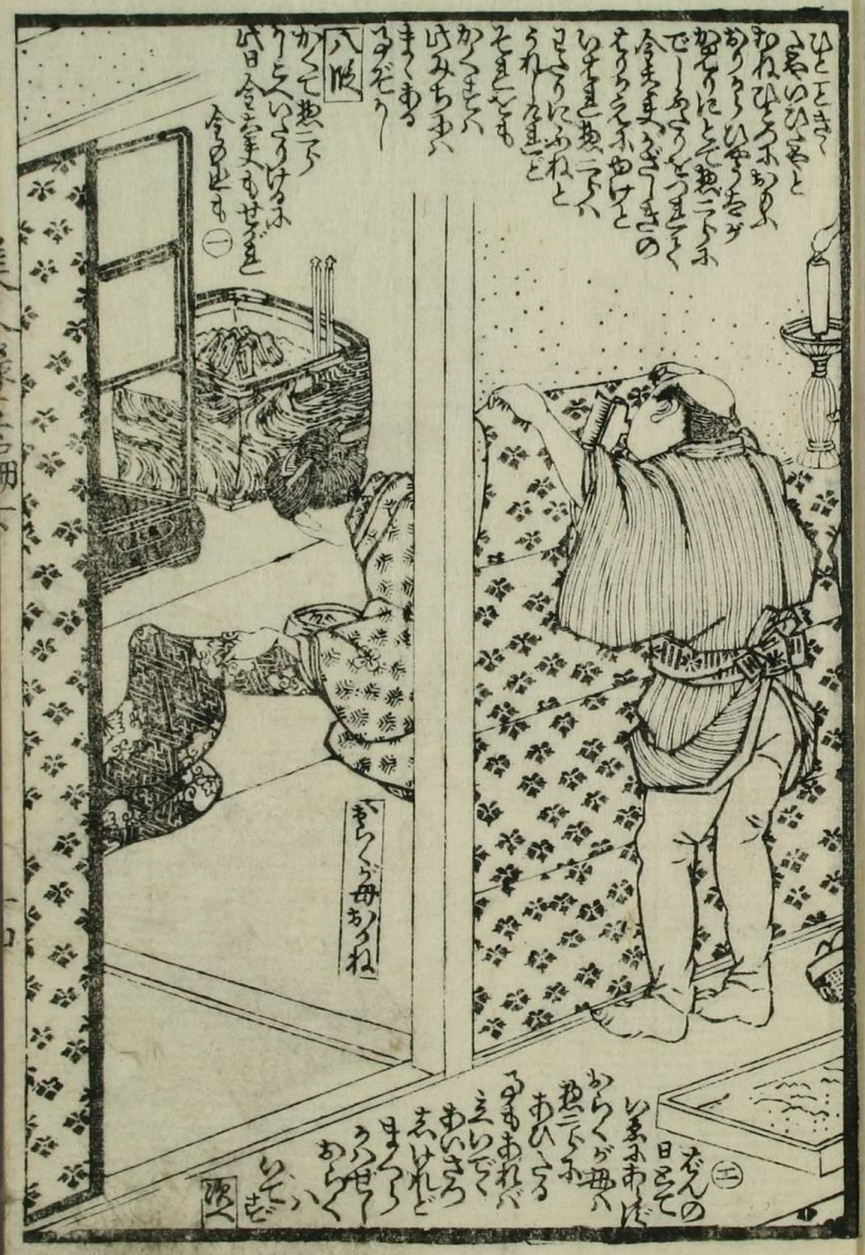
お吉
ひやうた

お丸

いく久金左衛
ひろう
七郎
あらふ三

おくま
袋ニハ

からく


八版
きらくゞ毋あつれ

おらく

恵二帝

その二 かるい女のやきもち

あらくさまあらくとのちはせまと
いいなをばかりくいたくふれのちて
おくへいりけりとしてさきのそう
つせちやのそうえのとて
いそきこれをいかがきしのそ
三人へやたちくとはしりを
越二郎さこころのふこを
ひさくとくあらばくとも
くちあんせうきうく
おもいきせうくん
とてわんかりをうて
うとふいこうあらう
人やあきあいさんの
ちんとぐつぐちの
やあうこふかうと
きそひちきこんもべ

三太 久ぐちのあやうく
おくさまとはかまくい
けそのうくいたくもべが
とうかしくちあとちあ
やれちのふりんこのまれ
こうろをかりあれちせ
ちんぐもちんをんいも
おくぐちきこうあうろう
ふくこのくらうと
まーやいさとまり

三 かるひまのいそんとちるとそ「おらくく」
と母のこ五ちやくーぐろう
えさうけり

▲さて五月三日の
江上いけ戸ゑぞー
浅草
一丁目
京橋
ゆて
十三味
菜あくひ
粉
水貝粉きんせう
百三十二せん
いろと白く
ちくれの
はやと
らぐんく
いくわど
のあと
しゆう
ろくま

いろくこけあぎうはやの
ようあのりそくらおべあのこと
まのくとぞさうくりへ
ゑをあげゆくともあこぶれく
こまとけられおあうのやも
やくいやゑとあげこまた
こくとくしのいのちにくうう
きさんいくーいゆあ
ひさくーいきうもあ
さそくうまこう
ふりしてやくくこうる
ちくもあのこをそ
そのきくくく
ちくうりどの
くまあいりいくーん
ゑをえふそでを
かきれいふのへ
ゆあとおがり也
ひきれゆくり
●ちのてーねと
こことあるこことでの
くふくうくべー
ふくいきりしとト
くんでさそいと
ふれーいこうの
ちやうーとそうと
あけくーくあちくまう

一文月あるべ
ばたどえ
むのどう
●やけど・ちどり
●ちもやけ・あぎ
いがいふびく
あらべおうる
極上おうるん
雲の上
六十四せん
「さうまの
おうくうい
白牡丹
百九四せん
●おくあぎ
えうあ
ろん
けいやきう
久十ほえ
おうくべ
ひ月おうひ
上い

九図

かくて我三ろうあらくふゆとてあのこどもらうさぎーてえらえうつまのぎくくくが目をたのひかいもうかるくふくくをとうのびいくくびもよみて「ふるふたらこびゆるあるたをあるはのきくくとこころにふあらくばるくくとあるくまふいのちたもうよるくくまるハこまるまま又さらくひもくくのつまをつけてもかわてきくるこのとあの男あのんくたさいあのびやトひかおりのハきたこ」やきこのちひとのくちにくもてりきくんどころあるうもう

・さてある日のあさゆとうかくりふいやくちたがでろちの三をうけのくさとをかびさるかびこきげくろよいあひれれバ・我三ろ「三をどくいこるまろ」が山ちをうまるへゆくぎ我三ろひのうちふにつひふゆぞかわくきくるうけものくまもれをちとろにあるくるもあらんと「こまと三をそのつひゆハれるもうこ国へくとんまいのよろとびふやさろふ二百のちうぎとらふとく

我三ろ

・「こまと三ちういのちるせたが四百ゆうこれをゆうくくまと」ウ四百くれるふくと二ふをとさーけまを

・我三ろ「ゆまをゆくくふハわろけるあくくふハいるふとちぐさるかくといくりてえれハたるひもひろくくしもるあつきくるあれハらくのくふふるるからくハまゆせるりとあるひくかそくもあるひあ

乃女ハ口上のくくさろかといぐーさこまハあるくくへのあつけのこまふつきちろとあるこそろれるふまんくるあのくとあるちゆんゆくいビ「こんくうもきくとのゆきくいビ」ゆくくくもきくゆるあつけのめハいてゆけとあるちゆきこれハはるぎーゆ

ぐさいきくトたゆ」ちろくこう我三ろ二百ハゆところへいまあきぐーのさろふるこさげてこまるぐーくくかくりけり

(三)りう
ちくさんが
ゆけどとまろうら
はあのごのあけぞの
ちまりかしてくぶきい
まーときさ。ちくを
あいくと表二アがかを入
さぐてをりめぐーゆり
ひとべト女はえまろアりぬ
かみられのあとまるりんとそ

かくとく
ちくぎ
つまの
おくさま
けさ
ゆめ
いろと
まく
あこアぶ
ろえくぎる
ゆふいがくく
ゆやの二の
でちゆう
きさま
あもわど
ぐあるのそや
ひるがりよい
きあ人ぐやと
ひとうぐとのふ丑
ひやうたの十女孝 (一)

もらくがかのふくと見つけ
ひら見えるべちびまでちらり見えて
あけて、ときりしとあれてふくちぎり
ーとたちまちたのとえ中各丑

かの三をもるめと
四ふまいさげく
きさう「ちくさん
七ろんでするめと
ゆくびとかつて
おわえさくわえべ
以をちさと
ちくさ「そろちの
ごをたあさんハ
そうぬう「いえ
あきんろハけき
ゆやのまつく
あいーとえ四百
りらくさう ちち
こちちもんであさき
ちりふもろあとかつてきこのき
「あぜあさんふ四百りらく
ちのちきにいかりそあと
ちやうえいくけたとおどされ
三をあり上ゆども
かさりけり

三ことを
ふくこと

五二帝

十二段

かまくら殿が男
日より山王さま

十四

十三段

かまくらかぶとうれつき
ある日より山王さまハ
十二日ほそ氏ゑハ
ある日さえ女のあり
夜あけてのち山王さま
まつりもの祈ハ
ほそ氏ゑのもとに
おくてもほそ氏ゑ
よびよせ
をきさう又
ほそ氏子
ゑ二郎
りよせきた
うまてゝ
ヤべきす
あれバ
くもモト
仕ゑまつりの
祈いのりと
ゑ二郎をつれ
きてまつり
山王さま「ひとりのあり
かゝゑとよびハべつまゝ
あゞだ七ゑんいぶん」

かまくらかぶとうれつき
ある日より山王さま

ゑ二郎

嘉永三庚戌歳新鐫目錄

繪圖見西行 山東庵京山作 十編 士編
一陽齋豐國画

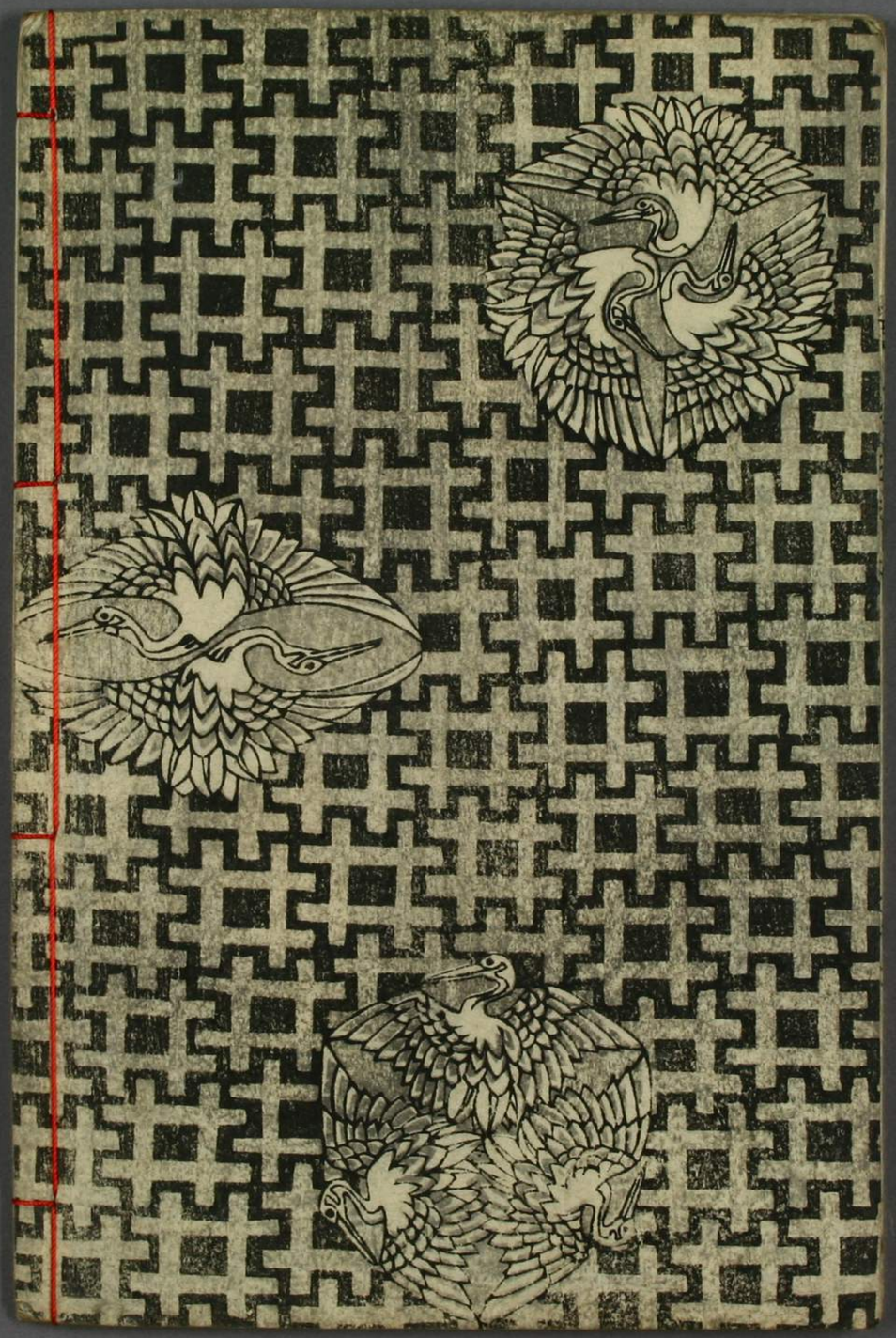
關太郎鈴鹿故語 樂亭西馬作 初編 二編
一雄齋國輝画

阿組琴聲美人錄 山東庵京山作 四編 五編
一陽齋豐國画

四天王權輿 樂亭西馬作 前太平記 五編
一雄齋國輝画

教訓孔子母草紙 山東菴京山作 七編 八編
一陽齋豐國画

破軍太郎七星奇談 柳下亭種員作 初編 二編
香蝶樓豐國画

七ツ組子拗 笠亭仙果作 初編 二編
一勇齋國芳画

東都芝神明前三島町角
喜鶴堂
佐野屋喜兵衛板